

事案名	佐鳴湖の事案（静岡県22-2）
分類	<p>廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 現在の状況</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『証言・昭和の戦争 告白的「航空化学戦」始末記』1992年〔1〕 ・『中日新聞』平成9年8月15日〔2〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調』のフォローアップ調査について(回答)」平成15年9月26日〔3〕
資料内容概要	<p>三方原陸軍教導飛行団により、残存した黄剤入りドラム缶10本程度をトラックに積み、トラックごと佐鳴湖に沈められた。また、訓練で使用されたイペリット、ジフェニールシアンアルシン等を終戦前後に浜名湖、佐鳴湖などに投棄したとされている。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元三方原陸軍教導飛行団の大尉は、兵隊へ命じて戦後の毒ガス弾等の廃棄処理において最後に残存した黄剤入りドラム缶10本程度をトラックに積み、夜間に輸送してトラックごと佐鳴湖湖底に沈めさせたことを回想している〔1〕。 ・三方原教導飛行団の訓練で、イペリットガスやジフェニールシアンアルシンなどが使われ、また、終戦直前にはこれらの毒ガスを浜名湖北部や佐鳴湖などに投棄したとの元関係者の証言を記している〔2〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元三方原陸軍教導飛行団の大尉の階層によると、『昭和33年頃の新聞に、自分が部下に命じて佐鳴湖に捨てさせた毒ガス入りドラム缶が浮上し、近くの住人が被毒した記事が掲載されていた』と文中に記載されている〔1〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐鳴湖の湖心及び佐鳴湖出口拓希橋で毎年水質測定を行なっているが、ヒ素等の健康項目はすべて基準値以内である〔3〕。